

ハイランドレポート
(高原通信)

Highland report !?

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
ニュースレター 第15(2004. 6. 5)

タイ研修レポート 3

NACC 栗坪千明

シリーズでお贈りしてきましたタイ研修レポートも今回で三回目です。
今回紹介する施設はタイ政府の運営する施設です。

名前は **Northern Drug Dependence Treatment Center**

タイの裁判所では、売人は刑務所、使用のみの人は病院に送られ、この施設に入ってくる。また、自分から入所してくるケースもある。

利用形態は入所型と通所型がある。裁判所からの命令の場合の入所費用は10,000 バーツ(約 30,000 円)、通所費用は3,500 バーツ(約 11,000 円)。双方共に4ヶ月のプログラムで、費用も政府の負担となる。自発的に来た場合は自己負担となる。

ホットラインを設けていて1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、8ヶ月というふう
に平均7回は施設から電話で退所後1年間は施設がフォローアップをして
いく。それを待たないで状態が悪くなったりしたら、緊急入所などの方法
をとる。

以前は退所後、覚醒剤などの薬物依存者の施設に戻って来るパーセン
テージは90パーセントであったが、最近では政府の麻薬撲滅運動の一環とし
て行なっている依存者が戻っていく環境を調整(売人の逮捕など)してい
った結果、50パーセントに減った。しかし依存症としてみた場合、別のもの
(例えばアルコール)などの依存者が増えているので効果としては一考
すべきである。この施設に退所後、戻って来る人はそのうちの20パー
セント程度で残り的人たちはアルコールに依存していると思われる。

麻薬撲滅運動は国家を挙げての大きな運動で、法に則った対応をしな
かった県の知事は左遷されるほどである。

病院も薬物依存者を入院させるのはあまり好まないが、政府が決めた以上受け入れを拒否することは出来ない。

アルコールに関してはこの施設に入所しなくても地域社会で治療の出来る環境が整備されてきている。

このほか、お金もあり、施設には入所したくない人のために、リゾートに施設を建設するプロジェクトが進んでいて、半年以内にオープンする予定がある。建物はすでに借り受けている。家族用のコテージなども計画の中にあり、家族のケアについても寄与する施設となる。タイ国民の貧富の差が覗える。タイ全国からの受け入れをする。

施設でのプログラムは“癒し”が中心で、ハーブを使ったマッサージとリラクゼーションのお風呂、エアロピクスなどである。ストレスからの開放をテーマにしているような感じである。ハーブのお風呂は体験したが、習慣の違いからかお風呂というには蒸し風呂といった感じで、研修に行ったみんなも気に入ったようだ。月に一度はスタッフと一緒に山に登ったり、温泉に浸かりに行ったり、場所を変えて気分転換のプログラムも行なっている。自分でするセラピーとして肉体、心、感情、スピリチュアルの4つを柱として、ヨガ、ハリなどを教えたりしている。これはスタッフ用にも使われている。

施設内のNAミーティングに参加したが、日本や欧米などとは異なり、施設スタッフ主導で行なわれている。

部屋は4棟が入所者の寝泊りする場所になっており、使用薬物によって分けられている。



エアロピクス



マッサージの実技指導

回復に向けて

ガク

私が最初に薬物に手を出したのは、中学卒業を間近に控えた3年の3学期だと記憶しています。

シンナーは気持ちが良くなるというよりは幻覚を見るのが楽しくてやっていたと思います。シンナーは2年程で止めて、16歳のときに覚せい剤と出会いました。何の抵抗もなく知人から進められるままに使用してしまいました。

その時は量が少なく、たいした快感もなく一回だけで終わりました。そのすぐ後にヤクザ組織に若衆として加入してヤクザ社会で生きていく事になりました。2年ほど事務所に寝泊りしていましたが、18歳のときに行儀見習いとして、ある親分の住まいに部屋住みの身となりました。1年位は、その世界なりの真面目さで頑張っていました。19歳のときに、これもほんの好奇心から覚せい剤の再使用となりました。



この時に打った快感は今でも忘れられない物で、天にも昇る気持ち良さだった事を覚えています。この時を境に覚せい剤の魔力に憑りつかれてしまいました。暇を見つけては抜け出し薬を買いに行く毎日でした。

拳句の果ては薬の使用が組にばれてしまい部屋住みから下ろされて組事務所でやり直しとなりました。20歳で事務所に戻り冷や飯を食わされたわけですが、私は開き直り薬を止めるところか売って商売にして稼いで行こう思い売人となりました。2~3人の客から始まってピークには30人以上の客にまで増えていました。

しかし悪いことは長くは続かず22歳で覚せい剤の所持で逮捕され3年6ヶ月の判決を受け刑務所に入ることになりました。3年6ヶ月という長い時間これからの自分について考えることが出来たのに、これも無駄に終わり再び組に戻り、薬をシノギにして生きてきました。薬の他にもシノギはありましたが、やっぱり薬が一番のシノギになっていました。

でもこんな私にも26歳の時に妻となる女性が現れて同棲を経て結婚となりました。妻は私が覚せい剤をやっている事など知らなかったのですが気づかれることになり3回目には「そんなに薬が止められないのなら私にも打って、そして同じ立場になり一緒に止めて行こう。」と言われ、私のとった行動は鬼か悪魔か妻に覚せい剤を打ってしまったのです。

今思えば何て事をしたんだと悔やまれてならないのですが、その時は薬を使っていたせいか正常な心が失われていた様な気がします。その時は約束したのに、次の日には又使ってしまう自分がいました。

そんなこんなで2回目の懲役に行き出所後、妻と別れることとなり、そのあとも繰り返し懲役生活を送り計4回刑務所に入りました。

現在はダルクで回復を目指し生活していますが、今まで自分がしてきた事を精算できるわけもなく、これからの自分を見てほしいと言う気持ちで日々施設生活を送っています。

今度こそ、この施設で過ごした意味を忘れずに回復に向かって歩いていきたいと思っています。



支援会員募集のお知らせ

昨今、社会問題の一つとして若年層者の薬物使用の増加が叫ばれています。薬を止められなくなってしまった人達の回復の場として、那須ケアセンターは薬物乱用防止の一役割を担っていると自負しております。

しかし、いまだ補助制度の利用が出来ない状態なので、皆様のご協力が必要です。ぜひ支援会員となって薬物依存者の回復にご協力下さい。

年会費一口五千元より ※別紙払込表でお申し込みをお願いします。
また、現在施設維持費及び整備費が不足しており運営が軌道に乗るまでの間皆様の末永い支援をお願いいたします。

NACC

ほだ木 速報

平成 15 年にオーナーの方々に菌付けをして頂いた、ほだ木の
写真です。まだ本数は少しですが椎茸の生えてきたほ
だ木が在ります。ご報告させていただきます



※ ほだ木のオーナーは随時募集しております
詳しくは那須ケアセンター事務局までお問い合わせ下さい。
TEL0287-77-7157 FAX0287-77-7158



施設内で津久井さんのリサイタルコンサートをみんなで楽しく聞かせて頂きました。

献金、検品を下された方々

小松崎未知様、鈴木鈴代様、飯室真次様、水井清次様、吉沢弘道様
モリヤ様、佐藤忠雄様、湊尚子様、京極明子様、長谷川和則様
聖血礼拝修道女会 那須修道院様、アナク様、長田康司様
福田澄夫様 他匿名3名様



いつも献品等、ありがとうございます。またまたお願いがあります。
今月に磐梯ダルクとソフトボールの試合があるんですが、グローブが足りない状態です家に使わない道具などがありましたら頂きたいと思ひます。
宜しくお願ひ致します。

NASU ADDICTION CARE CENTER



那須アディクションケアセンターの、新しいマークです。

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター

〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>